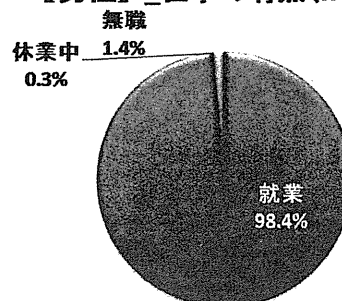


男性の仕事の有無

	度数	パーセント
就業	5681	98.2
有効 休業中	15	.3
無職	79	1.4
合計	5775	99.8
欠損値 システム欠損値	11	.2
合計	5786	100.0

ほとんどの男性が就業者である。

【男性】_仕事の有無(n=5775)

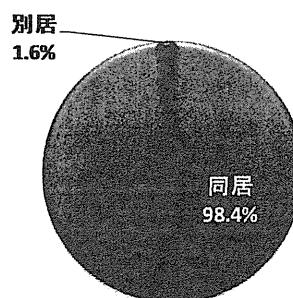


夫婦同別居の別

	度数	パーセント
同居	5695	98.4
有効 別居	91	1.6
合計	5786	100.0

ほとんどが同居世帯である。

【世帯】(夫婦)同別居の別(n=5786)



2. 男性票の分析

2.1 使用した変数

分析に用いた変数は、前出の「仕事の有無」の他に「通勤時間(分)」「1週間の就業時間」「1週間の勤務日」「子ども観の項目 1~16」と「家事・育児時間平日(時間)」および「家事・育児時間休日(時間)」である。「通勤時間(分)」「1週間の就業時間」「1週間の勤務日」「家事・育児時間平日(時間)」の記述統計は以下の通りである。通勤時間は、分単位の数値に新たに算出した。なお、「子ども観の項目 1~16」の度数分布は、後述の分析において示している。

男性票の分析に使用した変数の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
【男性】_通勤時間_分	5570	0	180	33.80	25.692
【男性】_1週間の就業時間	5630	3	150	49.59	13.818
【男性】_1週間の勤務日数	5654	1	7	5.35	.574
【男性】_家事・育児時間_平日_時間	5529	0	17	1.02	1.410
【男性】_家事・育児時間_休日_時間	5548	0	24	4.32	4.288

2.2 家事・育児参加時間との関連

平日・休日の家事・育児時間を従属変数として、使用した変数との関係を分析した。個々の分析について以下に示す。

2.2.1 仕事の有無と平日・休日の家事・育児時間

就業、休業中、無職のグループにおける平日・休日の家事・育児時間の平均値の差を一元配置の分散分析により検定した。

記述統計

		度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
【男性】_家事・育児時間_平日_時間	就業	5433	1.00	1.349	0	17
	休業中	14	1.93	3.912	0	15
	無職	72	2.46	3.202	0	15
	合計	5519	1.02	1.411	0	17
【男性】_家事・育児時間_休日_時間	就業	5453	4.32	4.276	0	24
	休業中	15	4.60	4.611	0	14
	無職	70	4.17	5.192	0	24
	合計	5538	4.32	4.289	0	24

分散分析

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
【男性】_家事・育児時間_平日_時間	グループ間	163.144	2	81.572	41.594	.000
	グループ内	10817.781	5516	1.961		
	合計	10980.926	5518			
【男性】_家事・育児時間_休日_時間	グループ間	2.739	2	1.370	.074	.928
	グループ内	101854.068	5535	18.402		
	合計	101856.807	5537			

等質サブグループ

【男性】_家事・育児時間_平日_時間

【男性】_仕事の有無		度数	$\alpha=0.05$ のサブグループ	
			1	2
Tukey HSD ^{a,b}	就業	5433	1.00	
	休業中	14		1.93
	無職	72		2.46
	有意確率		1.000	.252

等質なサブグループのグループ平均値が表示されています。

a. 調和平均サンプルサイズ = 35.087 を使用

b. グループ サイズが等しくありません。グループ サイズの調和平均が使用されます。タイプ I エラー有意水準 0.05 は保証されません。

【男性】_家事・育児時間_休日_時間

【男性】_仕事の有無		度数	$\alpha=0.05$ のサブグループ
			1
Tukey HSD ^{a,b}	無職	70	4.17
	就業	5453	4.32
	休業中	15	4.60
	有意確率		.903

等質なサブグループのグループ平均値が表示されています。

a. 調和平均サンプルサイズ = 36.975 を使用

b. グループ サイズが等しくありません。グループ サイズの調和平均が使用されます。タイプ I エラー有意水準 0.05 は保証されません。

以上の結果より、平日の家事・育児時間は就業グループと休業中・無職グループの間に差が認められ、就業グループの時間が短いと言える。この結果は、勤務時間と通勤時間を考えれば当然と考えられる。一方、休日の家事・育児時間は就業・休業中・無職のそれぞれのグループ間に差が認められなかった。就業グループは、休日にまとまった時間を家事・育児に費やしている実態が伺える。

2.2.2 通勤時間、1週間の就業時間、1週間の勤務日数と平日・休日の家事・育児時間

これらの変数間においては相関分析を行った。

相関係数

		通勤時間 分	1週間の 就業時間	1週間の 勤務日数	家事・育児 時間 平日	家事・育児 時間 休日
通勤時間_分	Pearson の相関係数	1	-.020	-.172**	-.140**	-.021
	有意確率 (両側)		.144	.000	.000	.132
	N	5570	5545	5563	5356	5359
1週間の就業時間	Pearson の相関係数		1	.374**	-.114**	.004
	有意確率 (両側)			.000	.000	.767
	N		5630	5628	5411	5416
1週間の勤務日数	Pearson の相関係数			1	.038**	-.010
	有意確率 (両側)				.005	.461
	N			5654	5433	5438
家事・育児時間_ 平日_時間	Pearson の相関係数				1	.578**
	有意確率 (両側)					.000
	N				5529	5512
家事・育児時間_ 休日_時間	Pearson の相関係数					1
	有意確率 (両側)					
	N					5548

**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

分析の結果、平日の家事・育児時間と通勤時間、1週間の就業時間は負の相関、1週間の勤務日数とは正の相関が認められた。すなわち、通勤時間が長いほど、また1週間の就業時間が長いほど、平日の家事・育児時間は短くなるということである。しかし、1週間の勤務日数が多いほど平日の家事・育児時間は長いという結果になり、これについては職種や一日の勤務時間等との関わりでさらなる分析が必要である。

2.2.3 子ども観の項目 1～16 と平日・休日の家事・育児時間

子ども観の項目 1～16 について、「あてはまる」と回答したグループとそうでないグループの平日・休日の家事・育児時間に統計的な差があるかどうか、t 検定を用いて調べた。各項目の内容は、以下の表の見出しに示すとおりである。

1. 家族の結びつきが深まる

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	969	.85	1.300	-4.509	1508	.000
	該当	4560	1.06	1.430			
休日	非該当	973	3.39	3.814	-7.531	1561	.000
	該当	4575	4.52	4.357			

2. 子どもとのふれあいが楽しい

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	1035	.62	1.076	-12.180	2016	.000
	該当	4494	1.11	1.461			
休日	非該当	1044	2.39	3.073	-20.563	2159	.000
	該当	4504	4.77	4.405			

3. 仕事に張り合いが生まれる

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	2027	.98	1.423	-1.668	5527	.095
	該当	3502	1.04	1.402			
休日	非該当	2031	3.96	4.175	-4.814	4371	.000
	該当	3517	4.53	4.339			

4. 子育てを通じて自分の友人が増える

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	4428	.96	1.350	-5.956	1508	.000
	該当	1101	1.27	1.606			
休日	非該当	4442	4.12	4.146	-6.335	1552	.000
	該当	1106	5.11	4.739			

5. 子育てを通じて人間的に成長できる

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	2257	.89	1.318	-5.607	5154	.000
	該当	3272	1.11	1.464			
休日	非該当	2268	3.74	3.990	-8.544	5184	.000
	該当	3280	4.72	4.440			

6. 老後の生活の面倒をみてもらえる

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	4931	1.02	1.401	.386	5527	.699
	該当	598	1.00	1.481			
休日	非該当	4950	4.32	4.250	-.072	5546	.943
	該当	598	4.33	4.594			

7. 子育てによる心身の疲れが大きい

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	4824	.99	1.353	-3.507	833	.000
	該当	705	1.23	1.739			
休日	非該当	4840	4.24	4.170	-3.181	857	.002
	該当	708	4.87	4.991			

8. 子育て・教育で出費がかさむ

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	2987	1.02	1.388	.061	1508	.951
	該当	2542	1.02	1.436			
休日	非該当	3000	4.39	4.246	1.297	1561	.195
	該当	2548	4.24	4.337			

9. 自分の自由な時間がもてなくなる

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	3687	.95	1.346	-4.994	3312	.000
	該当	1842	1.16	1.520			
休日	非該当	3706	4.00	4.083	-7.581	3307	.000
	該当	1842	4.96	4.609			

10. 仕事が十分にできなくなる

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	5266	1.00	1.383	-4.532	278	.000
	該当	263	1.51	1.801			
休日	非該当	5284	4.26	4.252	-4.209	284	.000
	該当	264	5.53	4.810			

11. 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	5455	1.01	1.407	-2.620	75	.011
	該当	74	1.49	1.546			
休日	非該当	5474	4.28	4.244	-4.226	74	.000
	該当	74	7.31	6.149			

12. 社会から取り残されたような気になる

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	5501	1.02	1.409	.879	5527	.379
	該当	28	.79	1.548			
休日	非該当	5520	4.32	4.285	.353	5546	.724
	該当	28	4.04	4.978			

13. 子どもにどのように接すればよいかわからない

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	5286	1.04	1.422	5.329	283	.000
	該当	243	.66	1.061			
休日	非該当	5303	4.38	4.282	4.750	267	.000
	該当	245	3.06	4.244			

14. 子どもの非行が心配

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	4858	1.02	1.419	.438	5527	.662
	該当	671	1.00	1.344			
休日	非該当	4876	4.29	4.260	-1.185	847	.236
	該当	672	4.51	4.484			

15. 子どもの教育・進学が心配

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	3576	1.02	1.372	-.303	5527	.762
	該当	1953	1.03	1.477			
休日	非該当	3590	4.28	4.256	-.936	5546	.350
	該当	1958	4.39	4.347			

16. 子どもの就職・仕事が心配

家事・育児時間		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率(両側)
平日	非該当	4186	1.03	1.420	1.201	5527	.230
	該当	1343	.98	1.377			
休日	非該当	4200	4.37	4.288	1.405	5546	.160
	該当	1348	4.18	4.287			

平日の家事・育児時間について、2 グループ間に統計的な差が認められた項目は、1、2、4、5、7、9、10、11、13 の 9 項目である。項目の内容をみると、「家族の結びつきが深まる」「子どもとのふれあいが楽しい」「子育てを通じて人間的に成長できる」等、子どもをもっていることをポジティブに捉えているグループは家事・育児時間が長い。しかし同時に、「子育てによる心身の疲れが大きい」「自分の自由な時間がもてなくなる」「仕事が十分にできなくなる」等、子どもをもっていることをネガティブに捉えているグループにおいても家事・育児時間が長い。家事・育児に関わっている男性は、育児を肯定的に捉えながらも、現実の問題や悩み、ジレンマに直面していると推察できる。

休日の家事・育児時間について、2 グループ間に統計的な差が認められた項目は、1、2、3、4、5、7、9、10、11、13 の 10 項目であり、平日と同様のことが言える。平日との違いは「3. 仕事に張り合いが生まれる」で、あてはまると回答したグループの方が、家事・育児時間が長い。休日の家事・子育てが気分転換的な機能を果たしているのかもしれない。

3. 女性票の分析

3.1 使用した変数

女性票の分析に用いた変数は、前出の男性票分析に用いた変数と同様である。「通勤時間(分)」「1 週間の就業時間」「1 週間の勤務日」「家事・育児時間平日(時間)」「家事・育児時間休日(時間)」の記述統計は以下の通りである。通勤時間は、分単位の数値に新たに算出した。なお、「子ども観の項目 1～16」の度数分布は、後述の分析において示している。

女性票の分析に使用した変数の記述統計量					
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
【女性】通勤時間_分	3364	0	300	22.45	19.021
【女性】_1週間の就業時間	3411	1	112	32.42	13.418
【女性】_1週間の勤務日数	3420	1	7	4.79	.959
【女性】_家事・育児時間_平日_時間	5527	0	24	7.76	5.260
【女性】_家事・育児時間_休日_時間	5643	0	24	9.80	5.576

3.2 家事・育児参加時間との関連

平日・休日の家事・育児時間を従属変数として、使用した変数との関係を分析した。個々の分析について以下に示した。

3.2.1 仕事の有無と平日・休日の家事・育児時間

就業、休業中、無職のグループにおける平日・休日の家事・育児時間の平均値の差を一元配置の分散分析により検定した。

記述統計

		度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
【女性】_家事・育児時間_平日_時間	就業	3201	5.24	3.433	0	21
	休業中	153	9.70	4.590	0	24
	無職	2163	11.36	5.386	0	24
	合計	5517	7.76	5.261	0	24
【女性】_家事・育児時間_休日_時間	就業	3252	8.69	5.343	0	24
	休業中	229	12.91	5.629	0	24
	無職	2153	11.17	5.485	0	24
	合計	5634	9.81	5.575	0	24

分散分析

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
【女性】_家事・育児時間_平日_時間	グループ間	49026.885	2	24513.443	1304.357	.000
	グループ内	103627.428	5514	18.794		
	合計	152654.313	5516			
【女性】_家事・育児時間_休日_時間	グループ間	10280.560	2	5140.280	175.653	.000
	グループ内	164784.705	5631	29.264		
	合計	175065.265	5633			

等質サブグループ

【女性】_家事・育児時間_平日_時間

【女性】_仕事の有無	度数	α=0.05 のサブグループ		
		1	2	3
Tukey HSD ^{a,b}	就業	3201	5.24	
	休業中	153		9.70
	無職	2163		11.36
	有意確率		1.000	1.000

等質なサブグループのグループ平均値が表示されています。

a. 調和平均サンプルサイズ = 410.359 を使用

b. グループ サイズが等しくありません。グループ サイズの調和平均が使用されます。タイプ I エラー 有意水準 0.05 は保証されません。

【女性】_家事・育児時間_休日_時間

【女性】_仕事の有無	度数	α=0.05 のサブグループ		
		1	2	3
Tukey HSD ^{a,b}	就業	3252	8.69	
	無職	2153		11.17
	休業中	229		12.91
	有意確率		1.000	1.000

等質なサブグループのグループ平均値が表示されています。

a. 調和平均サンプルサイズ = 583.796 を使用

b. グループ サイズが等しくありません。グループ サイズの調和平均が使用されます。タイプ I エラー 有意水準 0.05 は保証されません。

以上の結果より、女性の家事・育児時間に関しては、平日・休日とも、就業グループ、休業グループ、無職グループの間に有意な差が認められる。平日では、就業より休業中、休業中より無職になるほど、時間が長くなる。休日では、就業より無職、無職より休業中になるほど、時間が長い。休日に休業中の女性の家事・育児時間が長いのは、乳幼児の子育てをする育児休業等の期間にあたり、休日であっても多くの時間を育児に費やしていることが原因だと考えられる。

就業グループでは休日の家事・育児時間は平日に比べて、およそ2時間30分、長くなっている。

なお、女性の家事・育児時間の平均が平日7.76時間、休日9.81時間であるのに対し、上述の男性のサンプルでは平日1.41時間、休日4.32時間であることから、家事・育児時間の男女の差は極めて大きいことが改めて確認された。

3.2.2 通勤時間、1週間の就業時間、1週間の勤務日数と平日・休日の家事・育児時間

これらの変数間において、相関分析を行った。

相関係数

		通勤分 (計)	1週間の就 業時間	1週間の勤 務日数	家事・育 児時間_平 日	家事・育 児時間_休 日
通勤時間_分	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	1 3364	.167** .000 3351	-.037* .030 3360	-.207** .000 3283	-.102** .000 3273
1週間の就業 時間	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N		1 3411	.606** .000 3407	-.368** .000 3327	-.108** .000 3319
1週間の勤務 日数	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N			1 3420	-.186** .000 3333	-.005 .775 3325
家事・育児時 間_平日	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N				1 5527	.758** .000 5497
家事・育児時 間_休日	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N					1 5643

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

分析の結果、平日の家事・育児時間では、通勤時間・1週間の就業時間・1週間の勤務日数のいずれとも有意な負の相関が認められた。すなわち、通勤時間が長いほど、1週間の就業時間が長いほど、1週間の勤務日数が長いほど、平日の家事・育児時間は短くなるということを示している。

休日の家事・育児時間においても、同様の傾向が見られたものの、勤務日数の負の相関は有意でないことがわかる。

3.2.3 子ども観の項目 1～16 と平日・休日の家事・育児時間

子ども観の項目 1～16 について、「あてはまる」と回答したグループ (該当) と、そうでないグループ (非該当) の平日・休日の家事・育児時間に統計的な差があるかどうか、t 検定を用いて調べた。各項目の内容は、以下の表の見出しに示すとおりである。

1. 家族の結びつきが深まる

家族との結びつき		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	1097	6.93	5.061	-5.973	1737.426	.000
	該当	4430	7.96	5.289			
家事・育児時間_休日	非該当	1108	9.15	5.726	-4.248	1647.610	.000
	該当	4535	9.96	5.528			

2. 子どもとのふれあいが楽しい

子どもとのふれあい		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	1066	6.14	4.793	-11.977	1741.172	.000
	該当	4461	8.14	5.294			
家事・育児時間_休日	非該当	1072	7.76	5.465	-13.498	5641	.000
	該当	4571	10.28	5.494			

3. 仕事に張り合いが生まれる

仕事に張り合い		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	4068	8.19	5.415	11.059	3006.513	.000
	該当	1459	6.56	4.593			
家事・育児時間_休日	非該当	4154	9.81	5.574	.194	5641	.846
	該当	1489	9.78	5.585			

4. 子育てを通じて自分の友人が増える

友人が増える		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	2813	6.96	5.197	-11.612	5525	.000
	該当	2714	8.58	5.197			
家事・育児時間_休日	非該当	2872	9.05	5.696	-10.356	5636.370	.000
	該当	2771	10.57	5.340			

5. 子育てを通じて人間的に成長できる

人間としての成長		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	1326	7.38	5.287	-2.964	5525	.003
	該当	4201	7.87	5.246			
家事・育児時間_休日	非該当	1345	9.44	5.775	-2.623	2163.450	.009
	該当	4298	9.91	5.508			

6. 老後の生活の面倒をみもらえる

老後の生活の面倒		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	5012	7.83	5.218	3.138	5525	.002
	該当	515	7.06	5.604			
家事・育児時間_休日	非該当	5116	9.86	5.507	2.135	614.950	.033
	該当	527	9.26	6.186			

7. 子育てによる心身の疲れが大きい

心身の疲れ大		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	4039	7.50	5.073	-5.739	2413.590	.000
	該当	1488	8.46	5.678			
家事・育児時間_休日	非該当	4113	9.57	5.455	-4.898	2579.687	.000
	該当	1530	10.41	5.845			

8. 子育て・教育で出費がかさむ

出費がかさむ		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	2500	7.83	5.338	.954	5525	.340
	該当	3027	7.69	5.194			
家事・育児時間_休日	非該当	2557	9.96	5.575	1.963	5641	.050
	該当	3086	9.67	5.574			

9. 自分の自由な時間がもてなくなる

自由な時間がない		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	2859	7.02	4.803	-10.765	5267.114	.000
	該当	2668	8.54	5.604			
家事・育児時間_休日	非該当	2900	8.95	5.364	-11.860	5575.314	.000
	該当	2743	10.70	5.656			

10. 仕事が十分にできなくなる

仕事ができない		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	4322	7.72	5.171	-.831	1823.231	.406
	該当	1205	7.87	5.568			
家事・育児時間_休日	非該当	4413	9.72	5.477	-1.936	1858.172	.053
	該当	1230	10.08	5.910			

11. 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない

身近な人の無理解		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	5297	7.68	5.209	-4.629	243.927	.000
	該当	230	9.56	6.058			
家事・育児時間_休日	非該当	5401	9.70	5.533	-6.496	5641	.000
	該当	242	12.07	6.036			

12. 社会から取り残されたような気になる

社会から取り残される		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	5178	7.60	5.195	-8.224	388.907	.000
	該当	349	10.15	5.636			
家事・育児時間_休日	非該当	5280	9.72	5.571	-4.234	5641	.000
	該当	363	11.00	5.518			

13. 子どもにどのように接すればよいかわからない

接し方がわからない		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	5277	7.81	5.247	3.758	5525	.000
	該当	250	6.54	5.392			
家事・育児時間_休日	非該当	5389	9.87	5.538	3.872	272.571	.000
	該当	254	8.34	6.168			

14. 子どもの非行が心配

非行の心配		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	4818	7.82	5.254	2.204	5525	.028
	該当	709	7.35	5.282			
家事・育児時間_休日	非該当	4919	9.84	5.537	1.206	925.197	.228
	該当	724	9.56	5.832			

15. 子どもの教育・進学が心配

教育進学の心配		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	3180	7.81	5.484	.891	5311.232	.373
	該当	2347	7.68	4.941			
家事・育児時間_休日	非該当	3251	9.75	5.740	-.724	5341.344	.469
	該当	2392	9.86	5.345			

16. 子どもの就職・仕事が心配

就職仕事の心配		N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
家事・育児時間_平日	非該当	4207	7.93	5.365	4.542	2404.128	.000
	該当	1320	7.21	4.872			
家事・育児時間_休日	非該当	4298	9.86	5.579	1.550	5641	.121
	該当	1345	9.59	5.562			

平日の家事・育児時間について、2グループ間に統計的な差が認められた項目は、1、2、3、4、5、6、7、9、11、12、13、14、16の14項目である。

項目の内容のうち、「家族の結びつきが深まる」「子どもとのふれあいが楽しい」「子育てを通じて自分の友人が増える」「子育てを通じて人間的に成長できる」「老後の生活の面倒を見てもらえる」等、子どもをもっていることをポジティブに捉えているグループは全体として家事・育児時間が長い。しかし同時に、「子育てによる心身の疲れが大きい」「自分の自由な時間がもてなくなる」「子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない」「社会から取り残されたような気になる」等、子どもをもっていることをネガティブに捉えているグループにおいても家事・育児時間が長い。

また、「仕事に張り合いが生まれる」とするグループの平日の家事・育児時間はそうでないグループに比べ、約1時間半、短い。一方、「老後の生活の面倒をみてもらえる」「子どもにどのように接すればよいかわからない」「子どもの非行が心配」「子どもの就職・仕事が心配」等に該当するグループでも、家事・育児時間が短い。

これらのことから、男性よりも、家事・育児にはるかに多くの時間を費やしている女性たちの中には、子育てに積極的なグループと、ネガティブなグループの両方が存在することが示唆された。同様に、時間を費やしていない中にも、「仕事に張り合いが生まれる」グループと「子どもにどのように接すればよいかわからない」等という二つのグループが存在する。

子育てをしている男女が直面している複雑で困難な課題や悩み、ジレンマがどのようなものであるか、さまざまな角度からの検討が求められる。

次に、休日の家事・育児時間について検討したところ、2グループ間に統計的な差が認められた項目は、1、2、4、5、6、7、9、11、12、13の10項目であり、平日とほぼ同様のことが確認される。

4. まとめと今後の分析課題

以上のように、第9回「21世紀成年者縦断調査」(2010年)の男女ペア票(5786票)を用いて、家事・育児時間に関連する要因について検討した結果、次のことが明らかになった。

- ・調査対象者の属性は、平均年齢が男性37.98歳、女性36.05歳、子ども数1.54、小学校入学前の子ども数0.66人、末子年齢5.79歳、仕事の有無については女性の就業57.7%、休業中4.2%、無職38.0%、男性ではそれぞれ98.2%、0.3%、1.4%であった。また、夫婦同居98.4%であった。

- ・家事・育児時間と仕事の有無との関連を検討したところ、男性就業グループの平日の家事・育児時間は1.00時間で有意に短い、休日の時間については就業グループ、休業グループ、無職グループの間に有意差は見られなかった。女性では、平日、休日とも、各グループの間に有意な差が見られた。休業中グループでは育児に費やす時間が多いことが示唆された。

- ・男性では、通勤時間が長いほど、1週間の就業時間が長いほど、平日の家事・育児時間が短くなることが示唆された。女性では、通勤時間が長いほど、1週間の就業時間が長いほど、1週間の勤務日数が長いほど、平日の育児・時間が短くなることが推察された。また、休日の家事・育児時間は、通勤時間が長いほど、1週間の就業時間が長いほど、短くなる傾向があるが、その程度は平日よりも穏やかである。

- ・家事・育児時間と子ども観16項目との関連を検討したところ、男女とも、子どもを持つことをポジティブにとらえているグループにおいて家事・育児時間が長い、ネガティブにとらえているグループでも長い場合がある。「仕事に張り合いが生まれる」と考える男性グループでは休日の家事・育児時間が長い。一方、同じように考える女性グループでは平日の家事・育児時間は短かった。

なお、今回は、第9回調査のデータを分析するに留まり、十分な検討ができなかった。今後、以下の点に着目して、さらなる分析を実施し、男性の家事参加を促進する要因について解明していきたい。

- ・第1回～第9回までのデータを用い、男性の家事参加がどのように変化しているか、それに関連する要因を分析する。

- ・男性の家事参加に影響を与える、女性の側の影響・相互関係、その他の要因について、分析を深める。

- ・男性の家事参加に関する影響を与える要因について、さらに検討する。

- ・21世紀成年者縦断調査によってだけでは明らかにすることの難しい他の要因について、検討し、本プロジェクトにおける調査分析に反映させる。

資料編

既婚男性の家事参加促進プロセス に関する調査

【調査ご協力をお願い】

子どもを産み育てながら働き続けたいと考える女性が増えています。出産後も女性が職業を続けることを支持する割合は、専業主婦になることを支持する割合を上回り、父親が「子育て・家事に今以上に関わりたい」とする割合は過半数を示しています(54.2%、ベネッセ教育開発研究センター2009)。このような変化に伴って、家事・子育てといった家庭内労働へ男性の関与を増やすことが求められています。しかし、父親の育児・家事頻度の実態、平均時間や行為者率に、未だ変化の兆しが認められません。つまり、「意識」の上ではもっと子育て・家事に関わりたいと回答しているにも関わらず、実際の「行動」には変化が見られない状況です。私どもの研究は、このような「意識」と「行動」のギャップに関して、既婚男性の行動変容に影響を与える要因を実証的に検討しようとするものです。

本調査は無記名方式で行います。回答はすべて数字に変換し統計的に処理いたしますので、個人情報外部に漏れることは決してありません。アンケート調査票はデータ入力後、シュレッダーにて破棄します。また調査結果は、後日、各連合様まで報告書を郵送させていただきます。

調査の趣旨をご理解いただき、何卒、ご協力いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

ご記入後、「2013年1月末日」までに、ご提出・投函をお願い致します

2012年12月

高橋 桂子(新潟大学)・黒川 衣代(鳴門教育大学)・倉元 綾子(鹿児島県立短期大学)

I. 最初に、あなたのことについて、おたずねします。(最もあてはまるものに1つ、○をしてください。)

- F1【所属】 1. 連合新潟 2. 連合兵庫 3. 連合徳島 4. 連合鹿児島
- F2【居住地(市・町・村)の人口】 1. 5万人未満 2. 5万～10万人未満 3. 10万～20万人未満
4. 20万～30万人未満 5. 30万～50万人未満 6. 50万～80万人未満 7. 80万人以上
- F3【年齢】 満()歳 2012年12月1日現在 (数字を記入してください。)
- F4【最終学校】 1. 中学 2. 高校 3. 高専・短大 4. 専門学校 5. 大卒以上
- F5【一人暮らしの経験】 1. 有り 2. 無し
- F6【現在、親(義親含む)との同居】 1. 両親同居 2. 母親同居 3. 父親同居 4. 隣居・近居 5. 同居していない
- F7【午後7時前に帰宅する回数(1週間の勤務日について)】
1. 0回 2. 週1～2回程度 3. 週3～4回程度 4. 週5～6回程度 5. 7回
- F8【同居しているお子さんの人数】 1. 0人 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人以上
- F9【同居している一番下のお子さんの年齢】 2012年12月1日現在
1. 0～3歳 2. 4～6歳 3. 小学生 4. 中学生 5. 高校生 6. 大学生以上

次のページに続きます。→

II. 家事に関しておたずねします。(最もあてはまるものに1つ、○をしてください。)

問 1. あなたは、これから先 1ヶ月の間に、次の家事をどの程度、行うと思いますか

「実際に家事をどの程度しているか」ではなく、「これから先、どの程度、家事を行うか」でお答えください。

	行うだろう	多分、 行うだろう	多分、 行わないだろう	行わないだろう
1 部屋の掃除	4	3	2	1
2 玄関など外回りの掃除	4	3	2	1
3 風呂の掃除	4	3	2	1
4 洗濯(取り入れだけでも可)	4	3	2	1
5 ゴミ出し	4	3	2	1
6 日常の買い物	4	3	2	1
7 料理	4	3	2	1
8 食器洗い	4	3	2	1

問 2. あなたは「料理や掃除など家事をしよう」とすると、どのような気持ちになりますか。それぞれ選んで下さい。

問 2-1 「料理」をしよう					問 2-2 「掃除」をしよう				
	該当 する	やや 該当 する	あまり 該当 しない	まった く該当 しない		該当 する	やや 該当 する	あまり 該当 しない	まった く該当 しない
1 好き	4	3	2	1	14 好き	4	3	2	1
2 面倒くさい	4	3	2	1	15 面倒くさい	4	3	2	1
3 やらなくてはならない	4	3	2	1	16 やらなくてはならない	4	3	2	1
4 楽しい	4	3	2	1	17 楽しい	4	3	2	1
5 苦痛だ	4	3	2	1	18 苦痛だ	4	3	2	1
6 出来ればやりたくない	4	3	2	1	19 出来ればやりたくない	4	3	2	1
7 いつものこと	4	3	2	1	20 いつものこと	4	3	2	1
8 進んでやる	4	3	2	1	21 進んでやる	4	3	2	1
9 仕方なくやる	4	3	2	1	22 仕方なくやる	4	3	2	1
10 嫌い	4	3	2	1	23 嫌い	4	3	2	1
11 つまらない	4	3	2	1	24 つまらない	4	3	2	1
12 退屈だ	4	3	2	1	25 退屈だ	4	3	2	1
13 気晴らしになる	4	3	2	1	26 気晴らしになる	4	3	2	1

問 3. あなたが家事をすることについて、あなたの配偶者はどのように思うと考えますか。

	そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
1 妻は、私が家事をすることを、期待していると思う	4	3	2	1
2 妻は、私が家事をすることを、良いことだと思っている	4	3	2	1
3 妻は、私が家事をすることを、迷惑だと思っている	4	3	2	1
4 妻は、私が家事をすると、私を素敵だと思うだろう	4	3	2	1
5 妻は、私が家事をすると、私を自慢に思うだろう	4	3	2	1
6 妻は、私が家事をすると、私を高く評価するだろう	4	3	2	1

問 4. あなたは、家事に関してどのように行動したいですか。

		そう思う	やや そう思う	あまり思 わない	思わない
1	私は、家事に関して、妻の期待に沿うように行動したい	4	3	2	1
2	私は、家事に関して、子どもの期待に沿うように行動したい	4	3	2	1
3	私は、家事に関して、私の同僚や知人の期待に沿うように行動したい	4	3	2	1
4	私は、家事に関して、妻の同僚や知人の期待に沿うように行動したい	4	3	2	1

問 5. あなたは、自分の家事に関する能力について、どのように考えていますか。

		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
1	私が作ることができる料理のメニューは、多い	4	3	2	1
2	私は、美味しい料理を作ることができる	4	3	2	1
3	私は、家事の仕方をだいたい知っている	4	3	2	1
4	家事の仕方がわからないとき、本やネットですぐに欲しい情報を見つけることができる	4	3	2	1
5	尋ねれば、妻は、家事の仕方を教えてくれる	4	3	2	1

問 6 あなたは、栄養や料理に関してどのくらい知っていますか。

1	カロリーが高いのは	1. 炭水化物	2. タンパク質	3. 脂質	4. ビタミン
2	身体の調子を整えるのは	1. 炭水化物	2. タンパク質	3. 脂質	4. ビタミン
3	計量カップ 1 杯は	1. 180 mL	2. 200 mL	3. 220 mL	4. 240 mL
4	トマトの旬は	1. 春	2. 夏	3. 秋	4. 冬
5	卵小 1 個の重さは、およそ	1. 40 g	2. 50 g	3. 60 g	4. 70 g
6	牛乳 1L の値段は、およそ	1. 100 円	2. 200 円	3. 300 円	4. 400 円

問 7. あなたが家事をすることで、以下のことは、どうなると思いますか。

		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
1	私が家事をすることで、妻の負担を減らすことができるだろう	4	3	2	1
2	私が家事をすることで、妻の仕事(キャリア)を支援できるだろう	4	3	2	1
3	私が家事をすることで、子供とさらに向き合うことができるだろう	4	3	2	1
4	私が家事をすると、家族の生活がより有意義なものになるだろう	4	3	2	1

問 8. あなたは、日頃、「実際に」、次の家事をどのくらい行っていますか。

		行うだろう	多分、行うだろう	多分、行わないだろう	行わないだろう
1	部屋の掃除	4	3	2	1
2	玄関や外回りの掃除	4	3	2	1
3	風呂の掃除	4	3	2	1
4	洗濯(取り入れだけでも可)	4	3	2	1
5	ゴミ出し	4	3	2	1
6	日常の買い物	4	3	2	1
7	料理	4	3	2	1
8	食器洗い	4	3	2	1

次のページに続きます。→

Ⅲ. あなたのお考えや行動について、おたずねします。(最もあてはまるものに1つ、○をしてください。)

問 9. 職場について、おたずねします。

		該当する	やや該当する	あまり該当しない	該当しない
1	予定外の仕事が突然、はいつてくることがある	4	3	2	1
2	有給休暇をとりにくい雰囲気がある	4	3	2	1
3	家庭生活より仕事を優先することが期待されている	4	3	2	1
4	育児休業を取得すると、出世を諦めたと思われる雰囲気がある	4	3	2	1
5	私の職場では、女性が会議に参加している	4	3	2	1
6	私の職場では、女性が出張する機会がある	4	3	2	1
7	私の職場では、女性が役職についている	4	3	2	1
8	私の職場では、女性社員を育てていこうという雰囲気がある	4	3	2	1
9	同期入社的女性たちは、よく頑張っていると思う	4	3	2	1

問 10. あなたは日頃、どのようにしていますか。

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない
1	職場での仕事道具やデスク周りは、きれいに片づいている	4	3	2	1
2	職場では、必要な書類がどこにあるか、私は知っている	4	3	2	1
3	我が家のキッチン回りは、きれいに片付いている	4	3	2	1
4	我が家の食材ストックや調味料がどこにあるか、私は知っている	4	3	2	1
5	スーパーに並ぶ商品を見て歩くことは、楽しい	4	3	2	1
6	チラシを見て、値段を比較したりすることは、好きだ	4	3	2	1
7	私は、キッチンの便利グッズに関心を持っている	4	3	2	1

問 11. あなたは、夫と妻のあり方について、どのように考えていますか。

		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない
1	夫は仕事、妻は家事・育児と役割分担すべきである	4	3	2	1
2	家事・育児は、夫婦で分担すべきである	4	3	2	1
3	夫は、会社の仕事と家庭の用事が重なったとき、会社の仕事を優先すべきである	4	3	2	1
4	妻は、フルタイムで働いているとしても、家庭生活に差し障りがないようにすべきである	4	3	2	1
5	妻は、妻自身のキャリアを形成することより、夫のキャリアを支援するべきである	4	3	2	1
6	共働き両親の子どもが病気になった時、早退すべきは妻である	4	3	2	1

IV. あなたの配偶者のお仕事(賃金労働)について、おたずねします。
 (最もあてはまるものに1つ、○をしてください。)

(最もあては

問 12. あなたの配偶者は、収入を伴う仕事をされていますか。

1. している(問 13にお進みください。)

2. していない。(問 15にお進みください。)

問 13 から問 15 は、配偶者が収入を伴う仕事をされている方にお尋ねします。該当しない場合は、問 15 にお進みください。

問 13. 配偶者の仕事は、どれにあたりますか。

1. 常雇 (雇用户・公務員) 2. 派遣・パート 3. 自営・家族従業者 4. 内職 5. その他

問 14. 配偶者の仕事について、あなたはどうか評価していますか。

		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
1	妻は、大切な仕事をしている	4	3	2	1
2	妻は、社会的に意義のある仕事をしている	4	3	2	1
3	妻は、仕事をイキイキと取り組んでいる	4	3	2	1
4	妻は、仕事にやり甲斐を感じている	4	3	2	1
5	妻は、家庭に仕事にと、大変そうだ	4	3	2	1
6	妻は、仕事を楽しんでいる	4	3	2	1
7	妻は、仕事を通して、成長している	4	3	2	1

問 15. あなたの配偶者は、家事に対してどのようにお考えですか。

		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
1	妻は、家事は自分の仕事、と思っている	4	3	2	1
2	妻は、家事は、男性のする仕事ではない、と思っている	4	3	2	1
3	妻は、家事はやり甲斐のある仕事、と思っている	4	3	2	1
4	妻は私にいつも、「家事を手伝って」と、言っている	4	3	2	1
5	妻は私に、「休日くらい、家事を手伝って」と、言っている	4	3	2	1
6	妻は、私が家事をすると、ねぎらってくれる	4	3	2	1
7	妻は、私の家事に、何かと難癖をつけたがる	4	3	2	1

次のページに続きます。→

V. 最後に、あなたが受けた「家庭科」の授業などについておたずねします。
(最もあてはまるものに1つ、○をしてください。)

問 16. あなたは、小中高で、「家庭科」を学びましたか。

		はい	いいえ
1	小学校で、家庭科を学んだ	2	1
2	中学校で、家庭科を学んだ	2	1
3	高校で、家庭科を学んだ	2	1

問 17. 「家庭科」の授業はどうでしたか。

		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
1	家庭科は、好きだった	4	3	2	1
2	家庭科の授業は、楽しかった	4	3	2	1
3	家庭科の授業を通して、家事についての理解が深まった	4	3	2	1
4	家庭科の授業を通して、親の役割についての理解が深まった	4	3	2	1
5	家庭科の授業を通して、男女平等意識が高まった	4	3	2	1
6	家庭科の授業を通して、生活を科学的にみつめるようになった	4	3	2	1
7	家庭科の授業を通して、家庭生活は男女協力して営むものと考え るようになった	4	3	2	1
8	家庭科の授業を通して、家族のことを考えるようになった	4	3	2	1
9	家庭科の授業を通して、生き方や考え方が変わった	4	3	2	1
10	家庭科の授業を通して、家庭経済の理解が深まった	4	3	2	1

問 18. 「家庭科」以外でも結構です。社会人になる前に、次のことを学んだり聞いたりしたことはありますか。

		とても 該当する	やや 該当する	あまり 該当しな い	まったく 該当しな い
1	今日の日本は、共働き世帯が過半数であることを学んだ	4	3	2	1
2	社会で活躍している女性の話をきいた	4	3	2	1
3	女性も、働いて家計の責任を取るべきという考えについて学んだ	4	3	2	1
4	男性も、家事・育児を女性と対等に分担すべきという考えについて 学んだ	4	3	2	1
5	女性正社員の生涯所得は、「約 2 億円」と聞いたことがある	4	3	2	1
6	女性が出産後パート就業を選択した場合の生涯所得は、「約 6,000 万円」と聞いたことがある	4	3	2	1

問 19. 最後に、お宅ではご夫妻の「財布の管理」はどのようにしていますか。一番近いものを1つ選んでください。

1	収入は妻が管理して、自分は「小遣い」をもらっている。
2	生活費として必要な金額を妻に渡し、残りは自分が自由に管理している。
3	生活費として必要な金額を夫婦の「共通の財布」にいれて、残りはそれぞれが自由に管理している。
4	自分と妻がどの項目(例:家賃、食費等)を負担するか、決まっている。残りは、それぞれが自由に管理している。
5	その他(具体的に)

